



情報科学高校と協定を締結

市内の地域情報化・産業の活性化の発展に向けた包括連携協定を安来市と情報科学高等学校は締結しました。協定では、ITの振興やまちづくりの推進、人材育成など5つの項目で連携を進めることとなります。

6月27日に行われた調印式には近藤市長と小山校長が出席。同校長は「協定による取り組みで、同年代以外の異年齢の人たちとのつながりの中から人間力の向上に効果が期待できる」と話していました。



▶地域の魅力を分析するワークショップを実施しました。

▶協定書に署名・調印した近藤市長と小山校長（左）。



人づくりにつながる社会教育

交流センター運営協議会委員や学識者などで構成する社会教育委員の会を6月28日、安来庁舎で開催しました。同委員は、安来市の社会教育についての計画立案や調査研究が主な仕事。

研修会では、講師の松江教育事務所長の浜崎企画幹が「島根の社会教育は公民館活動を通じた人づくりを目指している」と紹介。この他、十神交流センター山根主事の事例発表や地域の魅力を分析するワークショップなどをを行い、委員相互の研さんを積みました。

県内の乾椎茸が勢揃い

6月8日に県乾椎茸品評会が「アルテピア」で行われました。今年は県内から「こうこ」や「こうしん」、「どんこ系」といった種類の乾椎茸105点が出品。表面のなめらかさや、色沢・形状の良さ、大きさの均一性等が審査されました。

近年は寒暖差や降雨等の極端な気象条件のため、規格品を揃えることが難しい状況。それでも優秀賞のものは、品揃えや規格ごとの特徴が良く表れていたことが評価されました。



▶平均気温や降水量が品質や生産量に大きく影響します。

7人目となる新隊員が着任

国の「地域おこし協力隊」制度を活用した通算7人目の隊員が着任しました。7月6日に近藤市長から辞令を受けたのは齋藤文子さん。今後は農業サポートセンターを拠点に、農業や農家を支える活動を行います。

島根県出身の齋藤さんは関東地方で就職・結婚。隊員になることを決意したのは、新規就農を志し市内で研修中のご主人から農業の苦楽や安来の魅力を聞いたのが理由。「皆さんとの交流を深めるのが楽しみです」と抱負を話していました。

▶協力隊の任期は3年。現在、5人の隊員が現役活動し、卒業隊員2人も市内に定住しています。

